

***Antenna House PDF Viewer SDK V6* 製品説明書**

目次

<i>Antenna House PDF Viewer SDK V6</i> 製品説明書	1
1. Antenna House PDF Viewer SDK について.....	1
1.1. 製品の種類	1
1.2. 製品のソフトウェア・コンポーネント	1
2. 製品マニュアル	4
3. ライセンスファイル	5
3.1. ファイル名・格納場所	5
3.2. ライセンスファイルの配置.....	5
3.3. ライセンスファイルの保守期限	6
4. サンプルプログラムについて	7
4.1. サンプルプログラム.....	7
4.2. サンプルプログラムのビルド	8
4.3. サンプルプログラムの実行.....	9
5. バージョンアップについて	10
5.1. メジャーまたはマイナーバージョンアップの場合	10
5.2. 改訂版のバージョンアップの場合.....	10
バージョン間で API の変更がある場合	10

バージョン間で API の変更がない場合	10
実行に必要なバイナリおよびリソース.....	10
実行環境で PDF Viewer SDK を差し替えたときに必要な設定	11
5.3. 差分のみ配布したい場合（改訂版の場合）	11
5.4. バージョン間の互換性についてのポリシー	11
5.5. V5.0 との互換性について.....	11
5.6. V4.0 との互換性について	13
5.7. V3.5 との互換性について	14
6. 保守サービスについて.....	15
6.1. 保守契約について	15
6.2. 保守サービスの内容.....	15
6.3. 「Antenna House PDF Viewer SDK」の保守サービス	16
6.4. 問題解決のヒント	16
6.5. サポート窓口.....	16
改訂履歴	18

1. Antenna House PDF Viewer SDK について

「Antenna House PDF Viewer SDK」は、PDF の表示や印刷、注釈編集やページ編集を行うためのライブラリです。ライブラリを組み込んで自動印刷やデータ抽出、画像化などのバッチ処理を行うプログラムを開発したり、GUI コンポーネントを利用して PDF ビューアー・編集機能を組み込んだお客様独自のアプリケーションを開発することができます。

1.1. 製品の種類

利用できるコンポーネントとライセンス種別に応じて、二つの製品をご用意しております。

- **Antenna House PDF Print Kit**

サーバー上での自動印刷やデータ抽出、画像化などバッチ処理向けの製品です。

- **Antenna House PDF Viewer Kit**

クライアントアプリへの PDF ビューアー機能組込みに適した製品です。

製品名	利用できるコンポーネント	ライセンス
Antenna House PDF Print Kit	PDF Viewer API のみ	サーバーライセンス
Antenna House PDF Viewer Kit	PDF Viewer Ctrl PDF Viewer API	スタンドアロン 10 ライセンス

- ※ どちらの製品も、製品マスタ（インストーラー）の内容は同一です。
- ※ 開発用にはデベロッパライセンスをご利用ください。
- ※ OEM/ASP ライセンスの場合は、別途個別契約に従ってご利用ください。

1.2. 製品のソフトウェア・コンポーネント

「Antenna House PDF Viewer SDK」には二つのソフトウェア・コンポーネントがあります。

- PDF Viewer API
- PDF Viewer Ctrl（PDFPageViewCtrl／PDFThumbnailCtrl／PDFOutlineCtrl／PDFLayerCtrl）

用途に応じてコンポーネントをお選びください。

	PDF Viewer API	PDF Viewer Ctrl
--	----------------	-----------------

形態	DLL	Windows Form (DLL)
API	.NET8 .NET6 .NET Framework 4.6.2 以降 C++/C 言語	.NET8 .NET6 .NET Framework 4.6.2 以降
32/64bit	32bit/64bit	32bit/64bit
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ コマンドライン(CUI)向き ・ PDF 処理の自動化向き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GUI アプリケーション向き ・ 出来合いの GUI コントロールを提供 ・ アプリケーションに簡単に組み込み可能 ・ コントロール API で独自の制限も可能
おもな機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ PDF の印刷 ・ PDF の画面表示 ・ テキスト抽出（位置および範囲指定） ・ パス情報抽出（直線やベジェ曲線の座標、ストローク/フィル等描画の種類） ・ 文字情報を取得（文字の矩形領域・フォントサイズ・フォント名等） ・ 画像情報を取得 ・ PDF の画像ファイル変換 ・ PDF の検索・ハイライト領域取得 ・ リンク注釈情報の取得 ・ ウォーターマーク表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PDFPageViewCtrl <ul style="list-style-type: none"> ・ PDF 表示 ・ 注釈表示・編集 ・ 検索ダイアログ・検索・ハイライト表示 ・ テキスト選択・コピー ・ 印刷ダイアログ・印刷 ・ 文書情報表示・設定 ・ セキュリティ情報表示・設定 ・ 画像ファイル変換 ・ SVG ファイル変換 ・ PDFThumbnailCtrl <ul style="list-style-type: none"> ・ サムネイル表示 ・ ページ編集（移動、削除、白紙ページ挿入、サイズ変更、回転） ・ PDFOutlineCtrl (.Net のみ) <ul style="list-style-type: none"> ・ しおり表示 ・ しおりのアクション実行 ・ PDFLayerCtrl (.Net のみ) <ul style="list-style-type: none"> ・ レイヤー表示 ・ レイヤーの On/Off
用途	<ul style="list-style-type: none"> ・ サーバー上で PDF 印刷の自動化 ・ 開発アプリへ PDF 印刷を組み込み ・ PDF 帳票からテキスト抽出し CSV 化 ・ 検索／範囲指定テキスト抽出による PDF 帳票フォーマットの判定 ・ テキスト矩形やパス情報を抽出して 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗端末への PDF 表示・印刷の組み込み ・ 機能制限をした PDF ビューアー開発 ・ 独自機能を追加した PDF ビューアー開発 ・ 注釈編集を利用したレビューシステム ・ ビューアー上で指定範囲を画像/SVG 変換

	PDF データを再利用	
サンプル	サンプル PDF ビューアー(C++/C) PDF 印刷コマンド (C++/VB.NET) その他	サンプル PDF ビューアー・エディター(C#) その他

2. 製品マニュアル

以下の製品マニュアルを用意しております。詳しい情報は各マニュアルを参照ください。

マニュアル名(ファイル名)	内容
PDF Viewer APIインタフェース仕様 (PDFViewerAPI.pdf)	PDF Viewer API の機能、ご利用方法、動作環境、制限事項、API リファレンス等
PDF Viewer Ctrlインタフェース仕様 (PDFViewerCtrl.pdf)	PDF Viewer Ctrl の機能、ご利用方法、動作環境、制限事項、API リファレンス等
Antenna House PDF Viewer SDK表示仕様 (PDFViewerSDK表示仕様.pdf)	PDF 仕様への対応状況や、制限事項等

3. ライセンスファイル

3.1. ファイル名・格納場所

<正規版>

- 電子納品の場合は、メール添付のファイルデータとしてご提供いたします。
- 製品 CD-ROM の場合は、「License」フォルダに格納されています。
- ファイル名は「pdfviewersdk.lic」です。
- このライセンスファイルは、お客様の保守期限が入ったお客様固有のものです。
- インストーラーによりインストールされる評価ライセンスの代わりにこちらをお使いください。

<評価版>

- インストーラーにより、インストール先フォルダの「License」フォルダに格納されます。
- ファイル名は「pdfviewersdk.lic」です。

3.2. ライセンスファイルの配置

利用するライブラリと同じフォルダに配置（コピー）してください。

コンポーネント	配置場所
PDF Viewer API	「AvsPDFViewerSDKXX.dll」と同じフォルダ
PDF Viewer Ctrl	「AvsGuiCtlXX.dll」と同じフォルダ

ビルド済みのサンプルプログラムを利用する場合、以下のフォルダにコピーしてください。

bin/Win32 または **bin/x64**

samples フォルダのサンプルプログラムをビルドして利用する場合、以下のフォルダにコピーしてください。

samples¥Windows-VS2019 以下の **Win32** または **x64**

samples¥Windows-VS2022 以下の **Win32** または **x64**

※DLL ファイル名は製品バージョンによって変わります。

例) V6.0 の場合 AvsPDFViewerSDK60.dll

※「PDF Viewer API」「PDF Viewer Ctrl」各コンポーネントに必要なバイナリファイル・リソースについては、各コンポーネントのマニュアルに記載しております。

3.3. ライセンスファイルの保守期限

○正規版の動作

- 正規のライセンスファイルには、保守期限が埋め込まれています。
- 保守期間中にリリースされた改訂版・マイナーバージョンは、同じライセンスファイルでご利用できます。
- 保守期間が終了しても、ご購入されたバージョン、保守期間中にリリースされた改訂版・マイナーバージョンは継続してご利用いただけます。
- 保守期間終了後にリリースされたバージョンでは、評価版と同様の透かしが表示されます。

○評価版の動作

- PDF ファイルの表示画面、印刷結果、画像ファイル出力に評価版を示す透かしが表示されます。
- 評価期限終了後は利用できなくなりますファイルオープンに失敗します)
- 評価版では「PDF Viewer API」「PDF Viewer Ctrl」両方のコンポーネントを利用頂くことができます。

4. サンプルプログラムについて

4.1. サンプルプログラム

下記のサンプルプログラムを同梱しております。

以下の表で「ビルド済」が○のものは、bin¥Win32 または bin¥x64 フォルダにビルド済みの exe がありますので、すぐに試して頂く事ができます。それ以外のものはビルドしてご利用ください。

サンプル名	ビルド済	内容
AvsPDFViewerSample	○	MFC の簡易な PDF ビューアー (PDF Viewer API)
AvsDotNetGuiCtlSampleV6	○ (.NET Framework 版のみ)	PDF Viewer Ctrl .NETFramework I/F を利用したサンプルビューアー .Net8 版 AvsGuiCtlSampleNet80 .Net6 版 AvsGuiCtlSampleNet60 .NET Framework 版と.NET8/.NET6 版で若干機能が異なります。 スタンプ・ものさしの例は.NET Framework 版をご確認ください。
ApiPdfPrint	○	PDF ファイル印刷のサンプル (PDF Viewer API)
ApiPdfToImg	○	PDF ファイル画像化のサンプル (PDF Viewer API)
ApiDotNetCSharp	－	PDF Viewer API を C# 言語から利用するサンプル
ApiDotNetVb	－	PDF Viewer API を VB.Net 言語から利用するサンプル
ApiSearchKeyword	－	指定文字列を検索し矩形位置を取得するサンプル (PDF Viewer API)
ApiTextInRect	－	指定した矩形領域内のテキストを取得するサンプル (PDF Viewer API)
CtrlVbNetViewer	－	PDF Viewer Ctrl を VB.Net 言語から利用するサンプル
CtrlWpfViewer	－	PDF Viewer Ctrl を WPF 上で利用する C# 言語のサンプル
AvsPdfDiff	－	PDF Viewer Ctrl を利用した、PDF 比較のサンプル (VS2022 のみ)。 実行には Image Magick V7 を別途インストールする必要があります。

- 各コントロール / API に実装されている機能のサンプルプログラムです。アプリケーションを作る上での参考にしてください。(全機能を完全に網羅しているわけではありません)
- サンプルプログラムはあくまでプログラム方法を例示するためのものです。そのままご利用になる場合は、お客様の要件にあったものとなっているか必ずご確認ください。
- 利用方法について、詳しくは各サンプルの ReadMe.txt を参照してください。
- プログラムソースやアイコンはそのまま流用していただいてもかまいません。
- サンプルプログラムは Visual Studio 2019 または Visual Studio 2022 用のソリューションです。
- PDF Viewer API のサンプルをビルドするには、MFC の開発に必要な追加のコンポーネントをインストールする必要があります。
- サンプルプログラムのビルド時に他の bin, Include, lib フォルダを参照します。samples フォルダをコピーする場合はこれらのフォルダも同じ位置関係にコピーしてください。

4.2. サンプルプログラムのビルド

- 以下のバッチファイルを用意しておりますので、そちらを実行してソリューションファイルを開いてください。関連 DLL へのパスを通してから samples.sln を開きます。

VS2022 の場合

<インストール先> %samples%\Windows-VS2022

samples.sln サンプルプログラムのソリューションファイル

VS2022 のフォームデザイナーでは、ネイティブコントロールを利用する PDF Viewer Ctrl がサポートされていないため、Windows フォームアプリケーションのデザインの修正ができません。

VS2019 の場合

<インストール先> %samples%\Windows-VS2019

samples.bat x86 用バッチファイル 32bit 版 DLL にパスを通します。

samples-x64.bat x64 用バッチファイル 64bit 版 DLL にパスを通します。

samples.sln サンプルプログラムのソリューションファイル

フォームデザイナーで GUI を編集する場合、AvsDotNetGuiCtl.dll と関連 DLL を含むフォルダに PATH を通した状態で Visual Studio を起動する必要があります。PATH を通さないとフォームデザイナーを開いたときにエラーが発生します。また、ビルドするプラットフォームと PATH を通した DLL のプラットフォームが一致していないと参照エラーが発生します。

- ソリューションを開いたら、プラットフォーム (x86 または x64) を選択してビルドをおこないます。
- 以下のフォルダにビルドしたファイルが出力されます。また、実行に必要な関連 DLL がコピーされます。

VS2022 の場合

[32 ビット版] samples%\Windows-VS2022%\Win32 の Debug または Release

[64 ビット版] samples¥Windows-VS2022¥x64 の Debug または Release
VS2019 の場合

[32 ビット版] samples¥Windows-VS2019¥Win32 の Debug または Release

[64 ビット版] samples¥Windows-VS2019¥x64 の Debug または Release

注意事項

- 平行ビルドのタイミングによりエラーが出る場合がありますが、その場合は再度ビルドを行ってください。
- AvsDotNetGuiCtlSample などの GUI サンプルにおいて、フォームデザイナーでエラーが出る場合は、下記をお試しください。（.NET Framework の Windows フォームアプリケーションの場合）
 - フォームデザイナー画面を一旦閉じる。
 - ソリューションをビルドしていなければビルドします。（sample¥Win32、samples¥x64 以下に必要な DLL がコピーされます。）
 - ソリューションを閉じて、Visual Studio を一旦終了します。
 - Visual Studio を再起動します。（バッチファイルを利用して関連 DLL にパスを通して起動します。）

4.3. サンプルプログラムの実行

- サンプルの実行にはライセンスファイルが必要です。ライセンスファイルを出力先フォルダにコピーしてから実行してください。
- AvsDotNetGuiCtlSample にはカスタムスタンプ注釈の例があります。カスタムスタンプを使うには exe と同じフォルダの下に stamp フォルダを作成し、2 つスタンプ画像を配置する必要があります。

stamp¥stamp1.png

stamp¥stamp2.png

ファイル名とファイル数は固定（2 ファイル）です。

5. バージョンアップについて

5.1. メジャーまたはマイナーバージョンアップの場合

- ・ DLL ファイル名が変更になり、API の廃止や動作変更を含む場合があります。
- ・ 通常、ソースコードの調整やインストーラーの配布ファイルの変更が必要になります。
- ・ 動作条件（対応 OS、制限事項等）の変更や、表示や印刷などの品質および動作速度がかならずしも旧バージョンどおりではない可能性がありますので、十分な計画やテストの上でバージョンアップをご検討ください。

5.2. 改訂版のバージョンアップの場合

現行バージョンと移行先バージョンとの間に API の変更があるかで、以下の二通りあります。API 変更があるかは、本章をご確認ください。

バージョン間で API の変更がある場合

開発アプリケーションのリビルドが必要です。

1. 開発 PC 上でインストーラーを実行して、インストールされている PDF Viewer SDK を更新します。
 - ※ 上書きインストールされます。旧バージョンの SDK が必要な場合は、SDK のフォルダを事前にコピーしてバックアップしてください。もしくはインストール先を変更してください。
2. 更新した SDK を使用して、開発アプリケーションをリビルドしてください。
3. リビルドした開発アプリケーションと更新した PDF Viewer SDK のバイナリおよびリソースを配布して、実行環境のファイルを更新してください。以下をご覧ください。
 - ※ 実行に必要な PDF Viewer SDK のバイナリおよびリソース
 - ※ 実行環境で PDF Viewer SDK を差し替えたときに必要な設定

バージョン間で API の変更がない場合

こちらの場合は、PDF Viewer SDK のバイナリおよびリソースを差し替えてください。

1. 開発 PC 上でインストーラーを実行して、インストールされている PDF Viewer SDK を更新します。
2. 開発 PC にインストールされた SDK のバイナリおよびリソースを配布して、実行環境のファイルを更新してください。以下をご覧ください。
 - ※ 実行に必要な PDF Viewer SDK のバイナリおよびリソース
 - ※ 実行環境で PDF Viewer SDK を差し替えたときに必要な設定

実行に必要なバイナリおよびリソース

- ・ PDF Viewer API「PDF Viewer API インタフェース仕様」4.4 実行に必要なファイル
- ・ PDF Viewer Ctrl「PDF Viewer Ctrl インタフェース仕様」4.3 動作に必要なモジュール、手続き等

実行環境で PDF Viewer SDK を差し替えたときに必要な設定

- PDF Viewer Ctrl - ActiveX 版 以外のモジュールをお使いの場合
ファイルの置き換えのみで、レジストリ設定等の追加の設定は不要です。
- PDF Viewer Ctrl - ActiveX 版をお使いの場合
API 変更やインストール先が変わる場合は、AvsActiveXCtl.ocx を再登録してください。これらの変更がない場合は、再登録なしでも動作するはずですが、再登録について以下をご覧ください。
「PDF Viewer Ctrl インタフェース仕様」4.3 動作に必要なモジュール、手続き等
「ActiveX 版を使用する場合はレジストリ登録が必要です。」のセクション

5.3. 差分のみ配布したい場合（改訂版の場合）

- 旧版と新版の SDK の bin/Win32 または bin/x64 フォルダのファイルをバイナリ比較して、ご利用中のファイルのうち異なるファイルのみ差し替えます。（「※実行環境で PDF Viewer SDK を差し替えたときに必要な設定」を参照のこと）
- 実際のファイルは対象のバージョンやご利用のコンポーネントや言語 API によって変わります。

5.4. バージョン間の互換性についてのポリシー

- メンテナンスリリース（改訂版、MR と略記する場合があります）は基本的には障害対応のみですが、場合により小規模な API 追加などの仕様変更を含む場合があります。このような場合にはリビルドが必要になる場合がありますので、予めご了承ください。
- マイナーアップグレード、メジャーアップグレードの場合 DLL 名が変更になりますので、リビルドが必須です。

5.5. V5.0 との互換性について

描画品質や速度、メモリ消費、その他の細かな動作について、全く同一の動作を保証するものではありませんので、ご了承ください。バージョンアップの際は、お客様にて事前に十分動作確認をお願いいたします。

[]内は対象のバージョン、コンポーネント、言語 API などです。

- DLL ファイル名が変更になりますので、リビルドが必要です。
- V5.0 から DLL ファイル構成が大幅に変更されました。配布するファイルにご注意ください。インストーラーを作成されている場合はインストールするファイルの見直しが必要です。

- ご利用には、V6.0 用のライセンスファイルが必要です。
- 一部に V5.0 から廃止・動作が変更された API や機能がございます。ご了承ください。

廃止された API :

- [V5.0 すべて] ActiveX インタフェースは廃止されました。ご了承ください。

動作が変更された API や機能 :

- [V5.0 すべて] [PDF Viewer Ctrl] オープン時一時ファイルにコピーしてから編集を行うように動作が変更されました。詳しくは「PDF Viewer Ctrl インターフェース仕様」「5.9 ファイルオープン時の一時ファイルへのコピー」をご覧ください。
- [V5.0 R1/MR1～MR5] [PDF Viewer API]および[PDF Viewer Ctrl] [.NET6/.NetFramework] AvsTextInfo クラスの IsNewLine フィールドは get プロパティに変更になりました。
set を行わない限りソース修正は不要です。
- [V5.0 R1/MR1～MR6] [PDF Viewer API] [C++] API が追加されました。
getDisableBlend、setDisableBlend
- [V5.0 R1/MR1～MR5] [PDF Viewer API]および[PDF Viewer Ctrl] [.NET6/.NetFramework] AvsTextInfo クラスの IsNewLine フィールドは get プロパティに変更になりました。
set を行わない限りソース修正は不要です。
- [V5.0 R1/ MR1～MR3] PDF 文書のプロパティ設定ダイアログにフォント情報タブが追加されます。
- [V5.0 R1/MR1/MR2] [PDF Viewer Ctrl] CtrlSyle プロパティに AGCS_IGNOREOPENPAGELAYOUT フラグを指定した場合に、PDF 文書が持つ PDF の綴じ方 (Direction) を初期値として反映するかどうかについての動作を変更しました。
MR2 以前 PDF 文書の綴じ方を反映します。
MR3 以降 PDF 文書の綴じ方を反映しません。
- [V5.0 R1/MR1] GetTextInfoRect などの文字情報取得メソッドにおいて Artifact を除外するように既定の動作を変更いたしました。
[PDF Viewer API] getTextInfoRect, getPageTextInfo
[PDF Viewer Ctrl] GetTextInfoRect, GetSelectedTextInfo
- [V5.0 R1/MR1] PDF オープン時にメモリ消費に合わせて、ロードするページ数を制御しています。

(詳しくは PDFViewerAPI setLoadPageCount メソッドの解説をご覧ください)。.NET6 への対応のため、こちらの空き領域の確認方法を変更いたしました。

従来はヒープ空き領域により判定しておりましたが、.NET6 ランタイムから行くと例外が発生するため(※)、この代用としてプライベート領域のサイズを見るように変更しております。アプリケーションの構成によって従来よりもメモリ不足が発生しやすい場合があります。とくに 32bit アプリケーションで、プライベート領域以外でメモリを割り当てするような場合(例、メモリマップドファイル)が該当します。これに該当する場合は別途ご用意している setLoadMemoryLimit メソッドにて、明示的に上限を設定してください。

※マイクロソフト社の技術サポートに相談しておりますが、対応未定の状況です。

5.6. V4.0 との互換性について

描画品質や速度、メモリ消費、その他の細かな動作について、V4.0 と全く同一の動作を保証するものではありませんので、ご了承ください。バージョンアップの際は、お客様にて事前に十分動作確認をお願いいたします。

- DLL ファイル名が変更になりますので、リビルドが必要です。
- ご利用には、V6.0 用のライセンスファイルが必要です。
- ライセンスファイルの配置先が変更になりました。本書「ライセンスファイルの配置」をご覧ください。64bit コントロールへの対応に伴い、PDF Viewer Ctrl の PDF ドキュメントへのハンドルの型が変更になります。下記の API が該当します。

GetPDFDocumentHandle メソッド

AttachPDFDocument メソッド

DocumentOpen イベント

- 一部に V4.0 から廃止・動作が変更された API や機能がございます。ご了承ください。

廃止された API :

- [PDF Viewer API] setDisableBlend メソッド (C++) / PdfvCiSetDisableBlend 関数 (C)
- [PDF Viewer API] makeWmfPage メソッド (C++) / PdfvCiMakeWmfPage 関数 (C)
- [PDF Viewer API] makeEmfPage メソッド (C++) / PdfvCiMakeEmfPage 関数 (C)
- [PDF Viewer Ctrl] AGCS_ALIGNVERTICALCENTER フラグ 既定でフラグ On の動作(見開き時に隣り合うページの縦方向中央を揃える)となります。

動作が変更された API や機能 :

- [PDF Viewer Ctrl] AvsPageLayout (ページレイアウト)

APL_SINGLE/APL_CONTINUOUS/APL_TWOUUP/APL_TWOUUP_CONTINUOUS に 加 え 、
APL_TWOUUP_COVER/ APL_TWOUUP_COVER_CONTINUOUS が追加されました。V4.0 では表紙あり・
なしの区別がありませんでしたが、V5.0 では表紙ありの場合は、APL_TWOUUP_COVER/
APL_TWOUUP_COVER_CONTINUOUS となります。

- [PDF Viewer Ctrl] 検索 次の候補を検索し一巡した場合、V4.0 ではメッセージを表示して終了しますが、V5.0 では最初のページに戻り検索を続けます。
- [PDF Viewer Ctrl] 文書情報 キーワードの改行する場合“¥r¥n”をお使いください。(V4.0 では“¥n”)
- [PDF Viewer API] getTextInfoInRect / [PDF Viewer Ctrl] GetTextInfoInRect テキスト情報に改行情報を含むように変更しました。
- [PDF Viewer Ctrl] DocumentPath SaveDocument で保存後に返すパスに変更があります。

V4.0 以前 SaveDocument に渡したファイルパス

V5.0 以降 OpenDocument に渡したファイルパス

レンダリング品質など

- 表示の高速化のため内部のグラフィックエンジンを変更しております。
- 既定の表示モード（Direct2D 有効）と従来の GDI+/GDI による描画結果は必ずしも一致しません。
- Direct2D を無効にすると V4 相当の描画となります。ただし不具合対応などにより V4 と同一とならない場合がございます。
- 上記は PDF のページについてです。ページ上の注釈オブジェクトの描画は従来速度・品質になります。

サポート

- V5.0 より、対応 OS などのプラットフォームの動作保証を行う範囲については、マイクロソフト社のメインストリームサポートの範囲といたしました。動産環境などに記載の環境であっても、サポートが終了した環境については動作保証の対象外となりますので、ご了承ください。
- ActiveX コントロールについては、V6.0 より廃止されました。ご了承ください。

5.7. V3.5 との互換性について

V4.0 からライセンスファイルが導入されました。

ライセンスファイルが必要になること以外は、V4.0 と同じです。

6. 保守サービスについて

6.1. 保守契約について

○ OEM / ASP ライセンス以外の場合

新規に製品をご購入いただいた場合には、ご購入後 1 年間の「通常保守サポート」が付いています。その後は、年間保守契約を結ぶことができます。

保守契約の内容や詳細については、弊社営業窓口あるいは営業担当までお問い合わせください。

システム製品営業窓口 : sis@antenna.co.jp

○ OEM / ASP ライセンスの場合

ご購入後 1 年間は、開発時の技術的お問い合わせの対応と、障害が発生した場合には無償で修正版を提供いたします。1 年経過後からは別途年間保守契約締結により、技術サポート・保守を継続いたします。

保守契約の内容や詳細については、弊社営業窓口あるいは営業担当までお問い合わせください。

OEM 製品営業窓口 : oem@antenna.co.jp

6.2. 保守サービスの内容

保守サービスの内容は、弊社が規定する「保守サービス規約」に準じます。

[ソリューション・システムコンポーネント製品保守サービス仕様 通常保守サポート](#)

URL: <https://www.antenna.co.jp/support/service-sys/#normal>

※「保守サービス規約」は予告なく変更される場合があります。

- 「通常保守サポート」は、製品のインストール方法や初歩的な使い方について、電子メールによるご質問にお答えする内容です。
- お答えするにあたり長時間の調査が必要となる、質問の回数が多数にのぼるなどの場合、「有償技術サポート」契約が必要になるケースがございますので、予めご了承ください。
- メンテナンスリリースの提供時期は弊社で重要度等を判断し計画を立て決定します（個別にご提供することはありません）。弊社のリリース計画を前倒しして欲しいというご要望がある場合、別途「特別保守サポート」の保守サービス契約締結が必要となります。

6.3. 「Antenna House PDF Viewer SDK」の保守サービス

本製品では、上記に加えて下記の取り扱いとします。ご注意ください。

- マイナーアップグレードおよびメンテナンスリリースは、無償でアップグレードすることができます。
- メンテナンスリリースの場合にも、不具合修正に加え軽微な機能追加や API 追加を含む場合がございます。これに伴い、メジャーアップグレード、マイナーアップグレードだけでなく、メンテナンスリリース更新の場合にもリビルドが必要になる場合があります。予めご了承ください。
- メンテナンスリリースは、最新のマイナーバージョンに対してご提供いたします。旧マイナーバージョンについてはメンテナンスリリースの提供はございません。
- メンテナンスリリースの提供時期は弊社で重要度等を判断し計画を立て決定します（個別にご提供することはありません）。本製品では大よそ半年に一度のリリースを予定しておりますが、必ずしもこの限りではありません。

6.4. 問題解決のヒント

お問い合わせの多い内容については、弊社ホームページにて随時公開しております。ご参照ください。

Antenna House PDF Viewer SDK よくいただくご質問：

<https://www.antenna.co.jp/support/faq-sys/viewersdk/viewersdk.html>

6.5. サポート窓口

正規ライセンスをご購入され保守サービスに加入中のお客様から、製品の技術的なご質問をお受けする窓口です。
ご質問はメールでのみお受けしております。下記の保守サポート窓口までお問い合わせください。

保守サポート窓口：pvs_support@antenna.co.jp

お問い合わせの際には、下記の情報をご明記ください。

- ・製品名 … ご購入いただいた製品名
例) Antenna House PDF Print Kit V6.0 / Antenna House PDF Viewer Kit V6.0
- ・ユーザ ID … 12 桁の数字

- ・ シリアル番号 … PVS または PVA で始まる英数字
- ・ ご利用のソフトウェア・コンポーネント
例：PDF Viewer API 64bit 版, C++ I/F,
PDF Viewer Ctrl 64bit 版, .Net6 PDFPageViewCtrl と PDFThumbnailCtrl

障害の場合には必要に応じて下記の情報もご提供お願いいたします。

- ・ お客様アプリケーションの開発環境（例：Visual Studio 2019, Visual C++）
- ・ 現象が発生する環境の情報
 - Windows OS のバージョン、エディション、32bit/64bit、サービスパック等。
（例： Windwos 10 Pro Ver.1803 64bit）
 - 搭載メモリ、CPU や周波数 等の情報
- ・ 現象が再現可能な PDF ファイルとソフトウェアを利用するサンプルコード

弊社において現象を確認することができない場合には、修正対応をいたしかねる場合がございます。
なにとぞご了承ください。

改訂履歴

年月	改定内容
2024 年 8 月	初版
2025 年 9 月	第 2 版

